

## メジロ



澄川の森でメジロに出会いました。2007年5月3日のことです。

コクワの蔓がからみあったあたりから聞きなれないさえずりが聞えるので正体を確認したくて辛抱強く動きを待ちました。元気な大声でさえずり続ける主をやっとの思いで双眼鏡にとらえてみますと、内地ではおなじみのメジロでした。地鳴きは聞きなれていたのですが、さえずりは過去に記憶しておりません。意外に上手なのに感心いたしました。帰宅して確認した図鑑の説明では「複雑な節回し」と記載されていました。

メジロはアイリングが白でくまどられていることで命名されたのでしょう。それだけで紛れのない鳥であります。装いは背側は美しい緑色で腹側は喉とお尻に黄色を配して粹なのであります。ために緑が濃くなる夏の季節では保護色となり確認するのが困難になります。

分布は日本では全国におよびます。私自身の体験でも南は屋久島、北は積丹半島で出会っています。九州の郷里では子供の頃から身近に親しんだ鳥でした。飼い鳥として流通していたので、子供の小遣い稼ぎの対象だったのです。罠を使ったトリモチ罠で仕留める技術は子供にも伝承されていました。現在は捕獲禁止になっているはずですが。一度でいいから巣を見つきたいと願っています。クモの巣を活用した吊り巣状の芸術的なもののようなのです。

ゴールデンウィークのどまん中で行楽日和でしたが、行楽地よりも澄川の森を一人歩きする方がずっと楽しいのです。沢地はミズバショウが美しく、雪解け水がさらさらと流れ、やっと訪れた春を満喫してきました。澄川の森林生態調査を意識してから、作業日以外に単独で入林する機会を増やしました。お陰様での出会いであります。巣箱の観察ではこの時点で4ヶに出入りしているのを確認できました。

この日確認できたのはこのメジロの他にアカゲラ、ヒヨドリ、ニューナイスズメ、コガラ、シジュウガラ、キセキレイ等等でした。ここ久しく出会っていない鳥ではエナガ、クイタダキであります。この森での出会いを期待しましょう。



2002年の初年度から手入れしている澄川の森は東側の境界が尾根線沿いの自動車道路となっているので、不法投棄のゴミを棄て易らしく、毎年清掃撤去しているのですが、今年も雪が消えると写真のような大型ゴミがざくざくと現れます。年々劣化してゆく公衆道徳をいやでも思い知らされる光景であります。これを少しでも阻止しようと車道沿いに5m間隔ぐらいで巣箱を車道に向けてかけているのですが、さほどの効果が現われません。残念なことですが、今の日本の現実は実に悲惨なものであります。

しかし、こんな場所でメジロがさえずっているわけです。ゴミの隙間にクロスズメバチが巣を作っていたりもします。そして、車道沿いの巣箱の3個に1個が使われていました。自然はまだまだ逞しいのであります。